
鉄鼠の檻と狂骨の夢読書感想

福寺なつ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鉄鼠の檻と狂骨の夢読書感想

【Nコード】

N8906F

【作者名】

福寺なつ

【あらすじ】

京極シリーズ鉄鼠の檻と狂骨の夢感想文です。短文です。これはサイト「花住時」に載せているものです。

檻を見つめる読書体験

「鼠といえば、僧侶じゃないか、君は本当に日本人か？」

日本人じゃないかも。

私はそう思いました。

「檻」は「拙僧が殺したのです」から幕を開けます。

殺人と宗教のゆきつもどりつ、は「理」を乗り越えた私には、苦痛でした。

「なぜ殺したのか」は「なんのために生きているのか」に跳ね返ります。

しかも、ひいきの刑事は出ないし、探偵は場面の進展を見せてくれては引つ込むし。

そういえば「彼とは誰か」は圧巻でした。

余談となりますが、「続日本殺人事件」には「檻」へ捧げるミス터리が収録されています。

たいへん興味深いお話でしたとお奨めしておきます。

牛は欲しいです。得た後、ああなつても。

ここまで目を通された方、お疲れ様でした。

骨を抱いて読書体験

冬の海を見たのは、一度だけでしょいか。
井戸の底を見たことも、ないです。

「狂骨」で一番好きなのは、あの憑き物落としての場面です。

人々の人生と事件が交わる、その点を京極が照らし出していく。そして、ラストの浜辺の場面も好きです。

降旗さんはユングにとらわれてしまったのですが、自分の心の中にそれと同じ呪縛ってたくさんあるなあと思います。

そして揺れ動いたり、攻撃されると呪縛にのっとなって反撃する。便利で依存性が高くて。

そんなにくつもの支えで安定していられるから、やっぱり京極の憑き物落としては、怖いと思う。

この話では左右対称の家のどちらが朱美さんの家か分からず、京極に呆れられる旦那のシーンが印象的でした。

あとは、降旗さんが「修さん」のことを語ってくれたのも嬉しい。・・・木場好きの感想です・・・。

ここまで目を通された方、お疲れ様でした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8906f/>

鉄鼠の檻と狂骨の夢読書感想

2010年10月10日03時39分発行